

## 第22回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年1月21日（火）15:00～17:30

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：石川 清（会長）、小川 久江（副会長）、岩本 陽児、押村 宙枝、川島 演、黒田 純子、  
佐合 昭浩、竹葉 かほる、辰巳 厚子、富川 尚子、西原 要四郎、柳沼 恵一  
以上 12名

事務局：熊田センター長、外川担当課長、松田事業係長、村田担当係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕天利 公一、菅谷 万里子、中村 香

〔傍聴人〕0人

〔資料〕・第22回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2013年度第2回生涯学習センター家庭教育支援運営委員会
- ・2014年度障がい者青年学級日程表（案）
- ・2013年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 資料1～3、12
- ・2013年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 報告4～11
- ・センター長報告

### <協議事項>

#### 1. 2014年度生涯学習センター事業について

（障がい者青年学級）

事務局：青年学級の内容について、学級活動を含め全16回の学級日を開催する点では今年度と変わらない。2014年度は青年学級開設40周年を迎える。記念のセレモニーを今年の年末に考えている。生涯学習センター運営協議会委員においては、開級式、成果発表会、セレモニー等への参加をお願いしたいと考えている。本日、2013年度成果発表会のご案内通知を配布した。学級生が日頃の学級活動の成果を発表する。ひかり学級は2月23日、土曜学級は3月1日、公民館学級は3月2日に生涯学習センターホールで開催する。新しい学級生の受け入れについて、学級をやめられる方やボランティアスタッフの数を見極めながら、募集の人数を検討していきたいと思っている。最後に、1月18日の公民館研究大会について、講師は青年学級、「障がい者の学びの場について」というテーマで分科会を開いた。各市の状況を学ぶことができ、情報交換ができたことは非常に有意義だった。また、事例発表や討議を通じて、町田市青年学級やとびたつ会のすばらしさを他市に伝えることができたと思う。当日はこの分科会を含めて3つの分科会が行われた。多くの方の出席いただいたことを感謝したい。

#### 2. 2013年度・2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）ひきこもる心を理解する ～地域で支えるために～（資料1）について説明。

（意見・質問）

特になし

（2）2014年度ことぶき大学（資料2）について説明。

（意見・質問）

委員：市民大学は、地域へ還元する、PRする等の目的があったと思うが、ことぶき大学は個人的な立場で、自分の学びを充実させるという考えでいいのか。

事務局：ことぶき大学は高齢者の学習のきっかけづくり、生きがいづくり、ひきこもり対策として、みんなで一緒に活動していただけるようなプログラム構成にしている。学ぶだけではなく、グループ活動をしていただける内容を作りたいと思っている。

委員：募集の段階で、市民大学とことぶき大学の違いが理解できるような広報はされているのか。  
事務局：それぞれの事業目的があって実施しているが、受講者にはなかなか分かりにくい。広報に目的まで載せることは難しい。市民大学は意欲を持ってやっていただかないと長続きしないようなメニューになっている。回数も多く、気楽に受講できるようなプログラムではないので、その辺で受講者に判断していただきたい。

会長：出席率はどうか。

事務局：かなり高い。8割を超える。

副会長：年齢層はどのくらいか。

事務局：60歳後半から70代の方が多い。

### (3) (仮称) 生涯学習センター利用者交流会 (資料3) について説明。

(意見・質問)

会長：センター利用者とは誰か。

事務局：サークル活動で利用している方、講座等に参加している方である。

委員：運営委員会はどう運営していくのか。

事務局：生涯学習センターまつりの企画・運営会議と同様で、火曜日の夜に集まり、その中で目的、方法、テーマ等を決めて、当日の運営までしていただこうと考えている。

委員：運営委員がすべてを企画するということか。

事務局：以前、公民館利用者懇談会を開いていたが、公民館をもっと使いやすくするために利用者としてどう考えているのかを職員と一緒に話をするという意図で行われていた。参加者が少なくなったこともあり、途中でやらなくなってしまった。職員が考えて懇談会を開くよりも、ここを利用している方に企画をしていただいて、その人たちに懇談会をしていただくと有意義なものになるのではないかと考えている。

委員：職員も参加されていたのか。

事務局：職員も参加し、利用者と話し合いをしていた。

委員：今回は利用者が中心になって、イベントをやってみようということか。

事務局：運営委員に企画していただく。まだどういう形になるかは未定である。

委員：申込みの期限はあるのか。

事務局：随時受け付けている。

委員：生涯学習センターまつりは文化系の、日頃の成果を発表する場であって、学習したものを発表するところは少ない。学習の発表の場が増えることはいいと思う。その辺りを掘り起こしていただくと、非常に充実するのではないか。

### (4) 映画「ぼくはうみをみたくなりました」上映会 (仮) (資料12) について説明。

(意見・質問)

特になし

## 3. 事業評価について

会長：家庭教育支援事業(1)(2)(3)(5)(6)から行う。

### (1) 乳幼児を持つ保護者のための講座「仲間とつくる わくわく子育て」(資料4) について説明。

(意見・質問)

委員：保育もされたのか。

事務局：母子別室で、学習室・調理実習室において母親が講座を受け、保育室において、保育士指導のもとお子さんが学習活動をされた。

委員：講師の方からつながりが薄いという話があったということだったが、制度を見直し、講座内容を掘り下げていくほうがいいという指摘をされたのか。

事務局：一つの講座のテーマのもと、各回がうまく繋がるようにしたほうがいいという意見をいただいた。

委員：かじる程度であっても、さまざまなテーマを学べることはそれなりに意義があると思う。受講された方はどうだったのか。

事務局：「いろいろなことが学べて良かった」とアンケートでは書かれていた。さまざまなテーマでほどよく学べて良かったのではないか。講師の意見も参考にしながら、次年度以降、講座を組み立てていきたいと思う。

会長：受講率は82%と非常に高い。乳幼児の保護者を対象にしたことと関連しているのか。

事務局：9月から10月開催したことが、季節的にも良い時期だったのではないかと思う。

副会長：参加者の満足度は高いので、今回の内容に講師の意見をプラスして、今後企画していただければと思う。

事務局：当初この講座を組む際、どういうことを主眼にしていくべきかを考えた。今回の内容以外にもさまざまなテーマがあり、その中でどれをピックアップするか、次に繋げていくことも考えて、講座を組んだ。例えば、自主保育は市全体を考えると、保育の知識を持っていないといろいろなことができないと思い、中身を検討した上で落とさざるを得なかった。今回はさまざまな課題をピックアップした。そういったところで、ギャップが出てしまった。講師の方も全体を見て、講座の在り方についてアドバイスをしていただいたと思うので、今後活かせれば良いと思う。

## (2) 中学生をもつ保護者のための講座（資料5）について説明。

(意見・質問)

会長：受講者数は何人か。

事務局：26名である。辞退者はいなかった。

委員：内容は非常に重要なものばかりである。募集定員を増やして、もっとPRすればいいのではないか。特に、親が一番興味を持っていることだと思う。

事務局：定員を満たすことができる内容にしなくてはいけないと思う。広報・宣伝にもまだまだ改善の余地がある。

副会長：中学生をもつ保護者の方は働いている方が多いと思う。関心があっても、平日の昼間に参加することはなかなか難しいのではないか。

委員：教育全般に興味がある人にとっては、どのテーマにも参加したいと思うが、自分の子どもがと思っている人にとっては、一つのテーマだけを受けられるとしたら、もっと参加者が増えたのではないか。2回講座だったのを5回講座にしたところが、受講率が下がった理由ではないかと思う。単発に参加できると同じ悩みを持つ保護者同士のグループ等、サークル化がしやすいと思う。例えば、同じテーマで2回ずつ実施してもいいのではないか。違うテーマで5回全てに出席しなくてはならないとなるとハードルが高いのではないか。

会長：今の制度では潜在的な希望者をぬぐってしまっていると思う。受けたい方はもっといるのではないか。

事務局：前は受講者同士の交流ができない、最低4、5回程度の講座にしたほうが受講者同士のコミュニケーションが取れるのではないかという意見が出たので、それを受けて改善した。毎回違うテーマで参加者を募るのか、受講者同士の交流に重きを置くかで講座の組み方が違う。

委員：生涯学習センターで学ぶことでコミュニケーションを活性化する、サークルを作るという目的もあるが、これからはここで学んだ人が地域活動に活かせる学びであることが必要だと思う。ここで会った人たちがサークルを作らなくても、ここで学んだことを自分の地域に持ち帰って活かしていければいいので、むしろ、ここではノウハウを学んでいくことが重要だと思う。ここで学んだ人たちがサークルを作ると狭くなってしまっているので、そこは考え直したほうがいい。内容について、いじめから見たネットではなく、ネットから見たいじめのほうが良いのではないか。今は親の知らないアプリがあふれていて、私たち大人も何が危険で何が危険ではないのかさえ分からない状況であるので、ネット事情をもっと親が知る必要がある。現在のアプリ事情や掲示板がどう使われているのか、子ども達がネットやアプリをどう使っているのかを専門家に教えてもらって、それが何故いじめに繋がるのか、何が危険なのかを学ぶと、学習テーマがはっきりしていて、関心もあるのではないか。いじめもネットも全部

入れてしまうと大変だと思う。インターネットから見たいじめというテーマを考えてみてもいいと思う。

委員：事業成果としてサークル化が評価されているが、そこまでいくことは難しい。サークル化までを求める評価には疑問を感じる。

事務局：受講者同士の意識向上だけでも評価になる。文章から受け取った評価をしている面もあり、他の面でもこの評価シートには問題がある。シートの考え方が市全体の方向性を指しているのか、センター事業の在り方を指しているのか、実質面と理想面が混ざっているのか、シート全体の精査をしていきたいと思う。

委員：サークル化という表現ではなく、地域還元という表現にすれば、自分だけではなく広がりがあるように感じる。ただ、受講者のその後を調査しないといけない。

委員：効果指標を見ると、「今後、地域の学校の中で話し合いの必要性を感じた」が100%であるので、一歩手前まで達成できたと思う。今後、学んだことを学校の中でどう生かされたのか、何をしたのか、を後で報告してもらえれば指標の裏付けにはなると思う。

会長：評価シートはどこまで開示されるのか。

事務局：最終的には教育委員会へ報告をする。個々のシートは100以上になるので、これを簡素化した形ですべて報告したいと思っている。

委員：定員を超えたらカットするのではなく、キャンセル待ちを4～5人取ってはどうか。1人でも欠員が出ないような方策を考えたいと思う。

事務局：キャンセル待ちはとっている。連絡なしに当日キャンセルがあると、空席が出てしまう。定員より多くとって、キャンセル待ちにし、欠席がわかった時点でキャンセル待ちの方に連絡する方法は行っている。

委員：受講者側の理由で不都合が生じたときに、それをカバーできる策をとっておくことが必要だと思う。今回は定員に満たなかったが、定員を超えた応募があつて、当日キャンセルが多かったということもあった。そういうことを踏まえて、考えていくことが大切だと思う。

事務局：今後もキャンセル待ちは何名かとりたい。定員がきたから切るようなことはしない。

会長：入らなかった人の平等性も考えなければいけないと思う。

### (3) 小学生をもつ保護者のための講座（資料6）について説明。

#### (意見・質問)

委員：事業運営の効率性がC評価であるのは何故か。

事務局：報償費としては少額であったが、前年度と担当者が入れ替わったこともあり、3名で業務にあたったため。人件費が多くなった。他の講座に比べて、必ずしも高いというわけではないが、反省すべき点である。

委員：3人で業務にあたった結果がC評価であったということだが、仮に1人だった場合はA評価になったのか。

事務局：コスト効率という観点からC評価となった。受講生OGと協力しながら実施したので、信頼関係を気づきながら作り上げていったという点で、いい評価が得られたと思う。

委員：そういうものを機械的に考えてC評価とするのもいかがかと思う。

事務局：一概に小学生を持つ保護者の講座といっても、低学年と高学年では内容的にだいぶ違うと感じた。来年度はその辺も含めて考えたいと思う。

委員：中学生や乳幼児の講座は比較的プログラムを作りやすいが、小学生の講座は幅があるので難しいと思う。プログラム内容は職員が決めているのか。アドバイザー等のアドバイスをを受けて決めたのか。

事務局：職員と受講生OGの方と話し合っ、回数や講師を決めた。講師の交渉等の事務的なことは職員が行った。今回は6回連続講座であり、1回～3回は子どもを俯瞰的に見るということで、実際に相談に当たられている教育センターの方や学校の校長先生に来ていただいた。4回目に「体験の中で子どもを鍛えよう」というテーマで、グループディスカッションを行った。5回目では体験の場である冒険遊び場たぬき山の方を招いて体験することのすばらしさについてお話をいただいた。また、たぬき山が、地域の方が運営に携わっていることから、

地域ぐるみの子育てや親同士の交流について学んだ。最後6回目では「よい子育てはよい地域から」ということで、地域での子育ての大切さについて学んだ。ストーリー仕立にして講座を組んだが、参加者の方に伝わったかどうか。

委員：評価シートでは9歳と6歳という具体的な年齢が出ている。6歳は1年生であり、学校の集団生活に慣れさせることを、1年を通して行うことが中心であって、問題点は2年生以降に出てくる。1、2年生と5、6年生ではまるで違うと思う。その辺はこれからどのように考えているのか。

事務局：この一連の講座は家庭教育支援事業の一つである。どう地域に広げていくかを視点に入れていく必要がある。一定の学年に対する保護者の学習というよりも、ここで学んだことをどう生かしていくかを、体験や学校の状況等を通して身につけていただきたい。そういう視点で作りに上げている講座なので、学年によって視点が変わってくるのはやむを得ないと思う。いろいろご意見をいただきながら方向性を考えていきたいと思う。

会長：家庭教育事業支援に対して、小学校の講座を低学年と高学年で分けたテーマで行っても問題はないと思う。

副会長：プログラムへの目論みは良かったと思う。その目論みに向かって低学年、高学年の問題をどう分析していくかということができたらいいと思う。

会長：講座回数はどう決めたのか。何か考えがあつてのことか。

事務局：特にはない。部屋の確保や、乳幼児の場合は保育士さんの都合等が関わっている。総合的に考えて決めた。

委員：低学年の子どもを持つ方でも将来の話として活用できるし、自分の子どもが育ってしまっても育て直しはできる。本当は5、6歳児の親に聞いてほしい内容であっても、中学生の親に、そういうことをしてあげられなかったお子さんに対してもう一回育て直せるチャンスはあるということを前提で聞けると、いろいろな対象の子どもを持っている方も講座に取り組みやすいと思う。全くそういった投げかけがないまま講座に参加してしまうと、自分の子どもの世代に関わることだけに興味が行きがちなる。そういう親は多い気がする。低学年、高学年に分けて実施することも一つの手であるし、また、講座の最初にみなさんに投げかけをするのもいいのではないか。

委員：交流を考えた場合、いろいろな学年のお母さんが出られるほうが経験者として言えることがある。経験した人に相談できるという意味では、いろいろな学年の保護者がいることも意味があると思う。目の前の問題についてはその学年にふさわしいもののほうがいいと思うが、交流を持つためには混ぜこぜのほうがいい。

事務局：いろいろな講座を組むことができればいいと思うが、人員、場所、予算の問題等ある中でこのような回数になっている。来年度に向け、みんなで子育てができる社会に繋げていければと思う。

委員：受講者のOGの方が関わられたということだが、どういう経緯でそうなったのか。他の講座でも適用できればいいと思う。

事務局：講座を受けたお母さんがサークルを作り、さまざまな企画を持ってきている。生涯学習センター事業として実施しているので、持って来た企画を参考にしながら講座を組んでいる。著名な講師の方を呼ぶ場合、早くから声をかけないと実施できないことが多い。そういった面でOGの方に助けていただくことはありがたく思っている。

会長：好ましいことだと思う。

事務局：全体の事業自体でも、講座を受けた方が次の講座の企画者になってもらう構想は持っている。例えば、きしゃぽっぽ事業が取り込みの場だとすると、その人が講座を受けて、学級を立ち上げて、その次にこういう講座を組むといった、そういう仕組みづくりができればいいと思っている。

(4) 市民企画講座「親子でダンス！」(資料7)について説明。

(意見・質問)

委員：会場がなるせ駅前市民センターになった経緯を伺いたい。

事務局：市民企画講座の募集が遅く、講座が秋に集中したため、生涯学習センターの部屋が押さえられなかった。駅前で行きやすい場所である、なるせ市民センターを選んだ。募集を子どもセンターや学童に特化して行えば良かったという反省がある。低学年の子どもと参加された方は、途中から参加できず、お子さんだけ来て楽しんでいただけたようだ。その人にとっては地域で行う意味はあったと思う。

委員：いつも生涯学習センターばかりで行われているので、地域で行うと地域の人々が来やすく参加が多いのであれば、これから先の中期的な戦略として、中央だけでなく地域に出前をして実施することも考える必要があると思う。

事務局：今後、地域に出ていくことも検討していきたいと思う。

委員：親子で募集をかけているが、親ではない人が近所の子どもを連れての参加はなかったのか。  
事務局：可能性としてはあると思うが、今回はなかった。

委員：離婚家庭が増えている現在、母親が参加できない方もいるのではないかと。

事務局：子どもだけで参加した方もいた。それは参加した親子の友達だった。

委員：いろいろと苦勞の多い人たちに楽しんでいただきたいという思いがある。税金の使い方としては大事だと思う。これまでずっと、特に東京の西の方の社会教育は中間層に力を入れているという特徴を發揮してきたと思うが、今みたいな二極化社会が出る以前の話だったので、どういう社会的な役割を担っていくのかということに関心がある。

事務局：生涯学習センターではなく、もっと地域に出ていくほうがいいのかもかもしれない。地域には地域の間人関係があるので、その辺で出しにくい難しさも出てくると思うが、ここでやるメリットは地域で話せないことでもここでは話せるということがある。どう地域に返していくのかが、また次のステップであると思う。

(5) 幼児を持つ保護者のための講座「地域で“イキイキ”子育て応援講座（資料8）について説明。（意見・質問）

委員：受講者にとって水曜日に開催されると参加が難しいと思う。町田市内には水曜日が早い幼稚園があるので、来ていただく対象者のことを考えると、こういう曜日設定はいかがかと思う。水曜日に参加できないために、講座自体の参加を見送った方もいるのではないかと。

事務局：講師の都合もあり、他の講座とかぶる時期だったので、こういう設定にならざるをえなかった。

委員：小学生講座であれば水曜日でもいい。講師の都合で仕方ないとは思いますが、その辺の都合も考えて講師の方を選択する必要もあると思う。

委員：市内にいろいろな幼稚園や保育園等の教育環境がある。そういったところで実践をしている講師の方に、現状や実際の問題について話をしていただけないか。

事務局：講師は現役の方で、子育てママのサークルの方である。講座自体が子育て支援、家庭教育支援に繋げるところからきているので、現場で活動されている方に講師になってという視点で講師を選んでいく。保育園等の現場の方に来ていただくという発想はなかった。のびのびという団体はボランティア団体からNPOになった団体であり、ピアチューレも市民活動で音楽をしている、子育て中のお母さんのコンサート等を行っている団体である。

委員：「子育てについて相談できる仲間ができた」という効果指標に対して、目標が80%、結果が27%である。参加者の声の中で「話をするチャンスをいただいて悩みを共感できたのが良かった」とあるが、私がもしここに参加して4回で話し合いをしても、悩みまで相談できるまでいかないと思う。結果が27%になったことがすごいことだと思う。もう少し指標の設定を考えたほうが良いと思う。

事務局：市民同士で、子育て中の人でも子育て前の妊婦の人でも教え合うことができる、例えば、今までの経験や、親から教えてもらったことを教えることもできるし、逆に教わることもできる、講師でもあり、受講者でもあるような学習を目指している。

会長：悩みが共感できたという、そのくらいなら良かったのではないかと。

事務局：深刻な悩みというよりも、身近にある子育ての悩みや知らないことを知るといって程度で考えていた。

委員：保育の申込みは何名いたのか。今回少なかったとしても、次回以降、保育は継続したほうが良いと思う。

事務局：19人中16組から申込みがあった。小学生講座でも保育をつけた。こちらは30名中4名の方が利用した。

委員：事業運営の効率性について、保育士の賃金も含めて3,575円で、B評価である。資料6の事業では2千円ちょっとでC評価だった。これはどう考えているのか。

事務局：もう少し頑張れたという反省の意味を込めてC評価としたが、この点については評価の変更を考えたい。

(6) 乳幼児を持つ保護者のための講座Ⅱ「仲間と考えよう！乳幼児の子育て」(資料9)について説明。

(意見・質問)

委員：乳幼児講座Ⅰで落選された方で、Ⅱに応募された方は優先的に受けられたのか。

事務局：優先措置はとらなかった。Ⅰを落選した際に、今後実施するかもしれないとのアナウンスはした。

委員：公平性という意味でどうなのか。応募が多かったのもう一回開催したと思う。落選した方が申し込んできた場合に優先するべきなのか、講座として別であるので、一律に抽選をするべきなのか、どう考えているのか。

事務局：年間計画としては考えていなかった。応募が多かったので急遽企画した講座である。日程的にない中で催したものである。受けたい方はたくさんいたので、さらの状態にして再度募集をかけた。一回目も二回目も落選した方がいた場合は、今後考えていきたいと思う。

委員：これだけニーズがある講座ならば、最初から年2回の開催を考えたかどうか。保育の関係があり一回の講座で20名以上はとれないと思うが、一回の講座回数が減ってしまっても、大勢の方に受講の機会を与えるということで、2回実施していただくのも考えてもいいと思う。

事務局：予算の問題もある。今回は家庭教育学級が3学級と昨年度に比べ少なく、そのうち保育なしの団体が1団体あったので、予算的に余裕があった。来年度も予算との兼ね合いを考えながら、できることは実施していきたいと思う。

委員：受講者の方の家族環境について、核家族なのか、二世帯なのか等の調査はされているのか。例えば、核家族の若いお母さんと相談できる相手が近くにいない、二世帯等で同居している場合は、おばあちゃんの知恵を借りられる、ということがある。そういった環境まで把握されたりしているのか。

事務局：要件としてそこまでを記入していただくことは個人情報の関係があってできないが、アンケート調査でそういった項目を入れることはできる。

委員：核家族で悩んでいる若いお母さん、お父さん達にとって、こういった講座は有用なのか。児童虐待等のさまざまな問題がクローズアップされているので、そういう意味では非常にいい講座であると思う。

(7) ゴスペルクリスマスコンサート(資料10)について説明。

(意見・質問)

会長：指標が分かりにくかったのではないかと。結果が低い。

委員：欠席者がいることを見越してとったのか。

事務局：受講確定者数を170名で、実際に参加したのが138名だった。それでも満席にはならなかった。

委員：いつもの内容ではなかったからか。ゴスペルという特殊な演奏だったからなのか。

副会長：ゴスペルだからいいという方もいたと思う。

事務局：受講率が89%になったのは、コンサートの中では高い数字である。

委員：欠席を見越して、定員より多くとったことは効果があったと思う。

事務局：今までの運協の意見を反映させ、定員より多くとった。今後は何分前に来なかった場合はキ

キャンセル待ちの方を入れることを考えていきたい。ただ、申込みをしなくて当日来ればいいという方が出てしまうと困るので、その辺と整合性を取りながら検討していければと思う

委員：コンサートに人気があるならば、年間のプログラムを増やしてもいいと思う。例えば、ニューイヤークンサート、バレンタインコンサート、ひなまつりコンサート等、若手の音楽家を起用する等、季節のイベントと絡めて年間のスケジュールを立てていければいいと思う。

事務局：年間のスケジュールは年6回行うことに決めていて、2か月に1回のペースで開催している。

(8) 昭和薬科大学・生涯学習センター共催講演会「脳と病気の最前線」(資料11)について説明。

(意見・質問)

事務局：みなさんに聞いていただきたい内容だった。特に臨床の先生の話がとても良かった。脳の病気は脳梗塞、脳溢血、くも膜下に分かれる。普段から心がけていないと、いつなるか分からないということだった。脳細胞を繋げるシナプスがアルツハイマーに関係していることが最近の研究で分かって、そのシナプスが切れてしまうと脳と脳の繋がりができなくなってしまいうという。これを切らせないためには、日ごろから楽しいと思えることを学んでいくことが必要である。最近の研究では、脳細胞も再生できるということだった。希望がわく講座だった。

委員：記録づくりをしていないことは残念な気持ちがある。一昔前の公民館では、学習者が文集を作ったり、記録したりしていたと思う。これだけデジタルが普及してきた時代である。事前に講師の方と記録することを交渉して、ビデオに撮って閲覧できるようにすれば、著作権の問題はクリアできると思う。講座を受けたくても受けられない方に対して、学習のリポートができるような環境を作っていただければと思う。

## <報告事項>

### 1. 生涯学習推進計画について

事務局：生涯学習推進計画の原案ができた。本日から1月31日の間で市民意見の募集を行う。それらを取りまとめて、最終的に教育委員会に承認をいただき、3月中旬に公表する予定である。この計画の中心となるのは生涯学習センターであり、アクションプランも多数掲載されている。来年度の事業計画に盛り込んでいきたいと考えている。

### 2. 事業評価の最終報告

事務局：4件ある。2件は市民企画講座、1件はサタデーコンサート、もう1件はパソコン講座である。パソコン講座は要望があり実施した講座である。パソコンを確保することが難しい。今回はNPO法人の協力があって開催することができたが、少人数しか受講者を募れない。個人の学習になり、学んだことを生かす機会がないという点では講座自体の難しさはある。今後、やり方も含めて、パソコン講座をどうしていくのかを考えていきたいと思う。その他の事業については、改善しながら継続していきたいと思う。特に市民企画講座については、生涯学習センターではできない内容が行えるので、今後も続けていきたい。

### 3. センター長報告

#### (1) 教育委員会について

1月10日に開催され、生涯学習推進計画の原案の概要、市民意見募集について報告した。次回は2月7日に開催予定である。

#### (2) 市議会について

2月23日に市議・市長選挙が行われる関係で、3月議会が変則になっている。来年度予算について、骨格予算ということで経常経費のみの案件になる。政策的なことは新しい市長が決まってか

ら、6月議会で決めてることになる。一般質問は3月25日から28日の4日間に行われる。3月20日に文教社会常任委員会が開催される。学校開放の条例改正について上程する予定である。

(3) センタービル管理について

1月23日に共同防火管理協議会の開催を予定している。10月26日に地下2階のコンプレッサーが小火になった案件である。マグネットスイッチが溶着していたことが原因で出火したということである。メーカーに製造責任があるのかが焦点になる。1月27日に公民館カフェと事務室の空調工事、公民館カフェの水道管の工事を行う。また、7階和室の畳の入れ替えを行う。

(4) 生涯学習推進計画について

1月31日までに市民意見を募集する。

(5) その他

1月18日に都公連の公民館研究大会が国分寺市で開催された。町田市は「障がい者の学びの場」というテーマで分科会を開いた。当日は100名くらいの参加があった。事例発表や情報交換をし、盛会に終わった。

(6) 今後の予定について

1月23日に生涯学習ナビの市民編集委員の公募説明会を行う。1月26日にプラネタリウムを開催する。2、3回目は定員を満たしていない。2月4日に学校開放制度委員会を開催する。2月9日に東京都知事選挙がある。また、生涯学習センターにおいて学生活動報告会を開催する。東日本大震災を忘れないというテーマになる。2月19日に生涯学習審議会が行われる。教育プランの確定報告、生涯学習推進計画の報告を行う。2月23日に市議・市長選挙がある。

(意見・質問)

委員：クラブハウスとは何か。

事務局：小・中学校で体育館、校庭を開放している。クラブハウスを建て、そこを拠点に市民の方に地域スポーツを担っていただくという取り組みである。クラブハウスはその核になる施設である。地域ごとにスポーツ振興をはかっていこうという意図がある。学校や開放委員会から意見をいただき、なかなか進んでいない。市としては、市内20校にクラブハウスを建て、地域スポーツの振興をはかっていこうという構想がある。文化・スポーツ振興部が担っており、生涯学習センターは関与していない。条例改正の絡みがあり学校開放検討委員会の事務局をしている。

副会長：学校の一部をクラブハウスにするのか。新たに学校の中にクラブハウスを建てるのか。

事務局：新しく建てる。学校でもそのクラブハウスを利用したいという要望もあり、クラブハウスの利用については変更する可能性があるという話をしている。

副会長：これは民間に委託するのか。

事務局：民間委託はしない。現在は管理員をシルバー人材センターに管理をいただいている。

委員：小学校だと敷地内に学童ハウスがある。そこの絡みはどうなっているのか。

事務局：現場をみて、立てる立地を選別して20校決めたということは聞いている。学校側にもさまざまな事情があり、例えば、そのクラブハウスを建てたときに生徒の通路の邪魔になる、搬入の邪魔になる等の問題がある。計画どおりに進んでいない状況である。

#### 4. 東京都公民館連絡協議会の活動について

【委員部会】

委員：2月23日に西東京市の柳沢公民館で第3回研修会を行う。テーマは「教育委員会制度の改変と公民館」、文部科学省の制度改革委員である、荒井文昭氏に状況等をお話ししていただく。申込みは2月7日までに事務局までお願いしたい。

【役員会】

委員：26年度の公民館連絡協議会の定期総会が4月16日に開催される。27年度の関東甲信越静公民館研究大会について、東村山市が中心に行くことになった。具体的な内容はこれから決めていく。次年度の役員構成について、研修担当理事を選任していく必要がある。候補者は検討中である。

## 【研究大会】

委員：第一部会について、前半に3つの報告があった。1. 地域防災について、2. 夏休みに公運審が提起した事業で、子ども達を公民館に呼び込む試みについて、3. 公民館の講座でパソコンスキルを学んだ人たちがグループを立ち上げて、ブログを作り地域の学習情報や団体・サークルのPRをする環境づくりについて。事例発表に対して、東北大学の石井山先生が助言者になり、構造機能論的でない、シニアも育っていくためには時間がかかり、世代交代も含めて長期的な地域の社会教育計画が必要ではないかという、議論が出された。後半はグループワークが行われた。17名くらいのグループが7つできた。自己紹介を含めて感想、公民館の状況を出し合い、公民館にはどういう中身が求められているのかをグループで話し合った。

会長：第三部会について、テーマは「公民館って何だろう」。公民館は、戦後三多摩から始まったということを知りびっくりした。最初は結婚式の場として、男女が平等ではなかった時代に、平等に公然と乾坤式をあげる場として機能していた。そういう中で公民館はどのような理念を掲げ、いかに維持していったらいいかという話だった。主催は昭島市。後半はグループワークの予定であったが、5人の公運審の方が話をして、それについて議論をした。公民館とは何か、公運審とは何かを基礎から見つめ直そうという内容であった。

事務局：第二部会について、講師は明治大学の小林茂氏。公民館は全国に1万5千ほどあるが、そのうち青年学級は300くらいしかない。東京都にはどこの市も青年学級がある。障がいを持つ人の支援をなぜ公民館がやるのか、学習をどのように支援していくのかが問われ、それについてグループで討議した。青年学級は地域と繋がる。公民館が曖昧だからいろいろなことができるという話があった。講師から、公民館にはたまり場という役割があり、そういうところで青年学級を活かしていくことが必要である。国立市には喫茶室があり、そこがボランティアスタッフを確保するための場所となっていると話があった。町田市の青年学級は全国的にも有名であり、町田の先駆的なところが注目されている。今後、町田市として青年学級をどうやっていくのかが注目されている。

## 5. その他

事務局：6階から8階学習室へ上がる非常階段（駐輪場側）を開館時間9時から22時まで開放することにした。また、1月28日に防災訓練を行う。これは生涯学習センター職員だけで行う。

次回の生涯学習センター運営協議会開催日について

2月18日（火）午前10時から12時 学習室2